

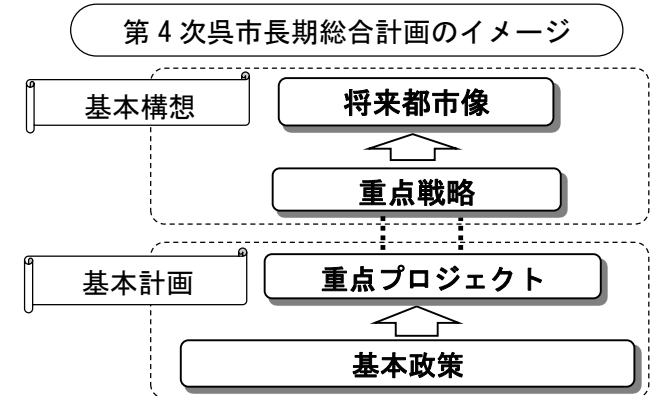
第4次呉市長期総合計画後期基本計画の改定について（報告）

1 後期基本計画改定の趣旨

後期基本計画は、基本構想に掲げる将来都市像の実現に向け、平成28年度から令和2年度までの5年間で取り組む「重点プロジェクト」や、その他市政全般に係る「基本政策」の方向性及び代表的な施策を明示しています。

策定に当たっては、呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の理念を盛り込むとともに、合併建設計画を踏まえた市域の一体感の更なる醸成や、過疎地域の日常生活基盤の維持・向上を図り、地域の特色を最大限に活かしたまちづくりを展開していくこととしています。

また、改定に当たっては、これに加えて豪雨災害からの力強い復興と、その中でこれまで以上に魅力的なまちづくりを進めていくため、呉市復興計画やくれワンダーランド構想の考え方を盛り込み、令和元年度当初予算を踏まえて改定しました。



2 令和元年度当初予算を反映したローリング

(1) 重点プロジェクトに追加した事業等（新規13事業、拡充11事業）

○重点戦略1「人づくり」

・(新) 子どもの居場所づくり	245万円
・(新) 子育て支援アプリの導入	65万円
・(新) 骨髄移植等支援事業	135万円
・(拡) 放課後児童会の充実	4,225万円
・(拡) 特色ある呉の教育の推進	1,438万円
・(拡) 地域包括ケアシステムの推進	3億5,049万円
・(拡) 目指せ！健康寿命日本一プロジェクト ～健診の受診促進～	2億2,171万円

○重点戦略3「都市づくり」

・(拡) 広島呉道路の4車線化の整備促進	—
・(拡) 呉駅周辺地域総合開発の推進	2,500万円
・(拡) 定住サポートセンターの充実	463万円

○重点戦略2「地域づくり」

・(新) 新たな森林経営管理制度	1,046万円
・(新) 天応西条3丁目地区整備事業	1億3,490万円
・(新) 中小企業人材育成事業	100万円
・(新) 新たな観光推進体制の構築	663万円
・(新) 「待っとるよ 呉」観光キャンペーン	494万円
・(新) 「(仮称)すずさんに逢える丘」整備事業	1,296万円
・(新) 大和ミュージアムの魅力向上事業	1,861万円
・(新) 入船山記念館の魅力向上事業	300万円
・(新) 呉港へのクルーズ客船誘致	646万円
・(新) リノベーションまちづくり事業	1,045万円
・(拡) 産地育成・地産地消の推進	851万円
・(拡) 呉産品の販路拡大支援	552万円
・(拡) 起業家支援事業	524万円
・(拡) 障害者就労支援体制の充実	100万円

(2) ローリング後の事業数・事業費 (H28～R2)

(単位：億円)

- ・ローリングの結果、計画期間中の概算事業費全体額は約 451 億円
- ・平成 30 年度末現在の執行額は約 296 億円

基本目標	事業数						事業費		進捗状況	
	追加事業	既存事業				合計	H28～R2 (①)	内R元年度	内H28～H30年度	
		拡充	継続	完了	小計				執行額 (②)	全体進捗率 (②/①)
人づくり	3	4	34	5	43	46	117.4	18.6	78.6	67.0%
地域づくり	10	4	43	2	49	59	208.6	39.4	122.4	58.7%
都市づくり	0	3	21	6	30	30	125.4	22.1	95.3	76.0%
合計	13	11	98	13	122	135	451.4	80.1	296.3	65.6%

3 平成 30 年度中に策定した計画

- ・呉市復興計画 (平成 31 年 3 月策定)

4 目指すべき姿 (目標) の修正

【重点戦略 2】 地域づくり ～地域の魅力の更なる創出～ 第 2 項 産業競争力の更なる強化

修正項目	修正前	修正後	修正理由
新たな産業団地の立地企業数	18 社	25 社	平成 30 年度において立地企業数も 21 社と目標値を上回り、令和元年度においては、阿賀マリノポリス地区の公募売却を予定しており、今後も新たな売却が見込まれるため、計画の数値を上方修正する。

【重点戦略 2】 地域づくり ～地域の魅力の更なる創出～ 第 3 項 産業を支える人材の確保・育成

修正項目	修正前	修正後	修正理由
実践型地域雇用創造事業による就職者数	689 人	774 人	実践型地域雇用創造事業において、平成 27 年度から平成 29 年度までの実績が、計画の約 2 倍の就職者数となったことを受け、平成 30 年度において目標値を 689 人に上方修正したが、今後も増加が見込まれるため、令和元年から令和 2 年実施分について計画の数値を更に上方修正する。

【重点戦略 3】 都市づくり ～都市機能の強化・充実～ 第 2 項 魅力ある住生活環境の確保

修正項目	修正前	修正後	修正理由
空き家バンク登録物件の成約件数	140 件	200 件	平成 30 年度において空き家バンク登録物件の成約件数は 145 件と目標を上回り、今後も新たな増加が見込まれるため、計画の数値を上方修正する。

5 目標達成状況等

<評価基準>

評価	KPI 指標の平成30年度末までの達成率
◎	全ての項目で60%を超えている
○	一つ以上の項目で60%を超えている
△	60%を超える項目がない
—	達成率が算出できないもの

※後期基本計画の計画期間5年のうち3年終了時点のため、達成目標は60%を基準とする。

【重点戦略1】 人づくり ～ 市民主体のまちづくりの展開 ～ 第1項 未来を担う人材の育成

重点的に取り組む事業							
(1) 結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援（不妊治療の支援，子育て支援センターの充実，子育て支援アプリの導入など） (2) 健やかに育つ子育て環境の整備（保育サービスの充実，放課後児童会の充実，子どもの居場所づくりなど） (3) 心豊かでたくましい「呉の子ども」を育てる教育の推進（小中一貫教育の推進，特色ある呉の教育の推進など） (4) 高等学校教育の充実（市立呉高等学校施設の耐震化（H28年度完了）など）							
目指すべき姿(目標)							
項目	目標(H27→R2)	単位	H28	H29	H30	累計	達成率
学校に行くのは楽しいと思う児童・生徒の割合	小学生：88.8→90	%	90.9	90.3	89.9	—	—
	中学生：88.4→90	%	86.5	87.0	86.2	—	—
将来の夢や目標をもっている児童・生徒の割合	小学生：93.4→95	%	91.6	93.4	93.7	—	—
	中学生：78.8→80	%	76.1	78.6	78.8	—	—
評価	現状						
—	・「学校に行くのは楽しいと思う児童・生徒の割合」について，小学生は前年を下回り，目標値に届かなかった。また，中学生も前年を下回り，平成27年度の数値も下回った。 ※ 県内平均値（小学生：89.3%，中学生：87.3%） ・「将来の夢や目標をもっている児童・生徒の割合」について，小学生は前年を上回った。また，中学生は前年を上回ったが，平成27年度と同数値であった。 ※ 県内平均値（小学生：91.5%，中学生：76.7%）						
令和元年度以降の方向性							
・子育て世代包括支援センター「えがお」において妊娠から子育てまでの包括支援をワンストップで行うことで多様なニーズに対応するとともに，今年度は「子育て支援アプリの導入」や「子どもの居場所づくり」を行うなど，子育て支援体制の更なる充実を図る。 ・小中一貫教育の取組を基盤とし，自ら課題を発見して解決する授業づくりを行うなど「主体的・対話的で深い学び」を通して，新しい時代に求められる資質・能力を育成する教育活動を展開する。 ・「オーケストラ鑑賞教室～くれリンクアップコンサート～」などの文化・芸術体験活動や，職場体験などの地域や社会との関わりのある学習活動を充実させ，児童生徒の豊かな感性や郷土を愛する心を育成する。							

第2項 市民の健康づくりの推進

重点的に取り組む事業							
(1) 健康づくりを支える地域ぐるみでの運動習慣の定着（地域に根ざす健康づくりの推進など） (2) 恵まれた医療環境等を活かした生活習慣病予防・介護予防対策（地域包括ケアシステムの推進、健診の受診促進など） (3) 地域医療体制の確保（救急医療体制の確保、骨髄移植等支援事業など）							
目指すべき姿(目標)							
項目	目標(H27→R2)	単位	H28	H29	H30	累計	達成率
健康であると感じる市民の割合	※H26 72.3 → 80	%	(R元調査予定)			—	—
健康寿命（日常生活動作が自立している期間の平均）	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加 ※H27 男性 平均寿命79.94年 健康寿命79.00年 女性 平均寿命85.78年 健康寿命83.44年	男性平均寿命(年)	81.05	80.13	R2.4 公表予定	—	—
		男性健康寿命(年)	79.96	79.13		—	—
		女性平均寿命(年)	86.97	87.39		—	—
		女性健康寿命(年)	84.42	84.96		—	—
特定健康診査の受診率（国民健康保険加入者）	25.3 → 42 (H30年度改定で45から42に変更)	%	24.7	28.1	R元.11 公表予定	—	—
評価	現状						
—	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の呉市の健康寿命と平均寿命との差は、男性：1.01年、女性：2.43年となっている。平成27年度の健康寿命と平均寿命との差は、男性：0.94年、女性：2.34年であり、男女とも健康寿命と平均寿命との差が広がっている。 平成29年度呉市国民健康保険特定健康診査受診率は28.1%であり、前年度と比べて3.4ポイント上がっており、制度開始の平成20年度（16.3%）に比べて11.8ポイント増加している。 						
令和元年度以降の方向性							
<ul style="list-style-type: none"> 市民が自分の健康状態を把握し、疾病の発症予防に活かすために健診の受診促進に取り組む。 特定健康診査の個人負担無料化や人間ドック助成等の継続等を行い、受診環境の拡充と受診率の向上を図ることにより、更なる健康寿命の延伸に取り組む。 令和元年度は、健診予約受付及び受診勧奨等を広島中央地域連携中枢都市圏事業として新たに実施する。 							

第3項 地域協働によるまちづくりの推進

重点的に取り組む事業							
(1) 協働によるまちづくりをリードする担い手の育成（まちづくりセンターの指定管理者制度移行，市民協働センターの運用など）							
(2) 地域住民によるまちづくり活動への支援（地域まちづくり計画に基づく地域活動の支援，市民まち普請事業の推進など）							
(3) 地域外からの人材の確保・活用（地域おこし協力隊の受入れ推進）							
目指すべき姿(目標)							
項目	目標(H27→R2)	単位	H28	H29	H30	累計	達成率
地域活動に参加している市民の割合	※H26 38.6 → 60	%	(R元調査予定)			—	—
地域活動に参加している市職員の割合	38.9 → 60	%	44.3	44.1	41.1	—	—
呉市に愛着を感じている市民の割合	※H26 69.7 → 80	%	(R元調査予定)			—	—
まちづくりサポーターの人数（累計）	16 → 28	人	18	21	25	9	75.0%
市民まち普請事業の延べ実施件数（累計）	73 → 110	件	82	88	88	15	40.5%
評価	現状						
○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動に参加している市職員の割合は，41.1%となり前年より3ポイント下がった。 ・地域内の各種団体の支援活動を行うまちづくりサポーターの人数が平成30年度に4名増加し，達成率は75%となった。 ・平成30年度の市民まち普請事業は平成30年7月豪雨災害が主な要因で利用がなかった。 						
令和元年度以降の方向性							
<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの自立経営を促進し，地域内・地域間の交流や連携を図るため，まちづくりの軸となる人材を発掘・育成していく。 ・既に地域活動に積極的に参加している市職員が中心となり，職員の地域活動への参加を促進する取組を検討する。 ・各まちづくり委員会等による，地域まちづくり計画に基づいた特色ある事業の実施などにより，「ゆめづくり地域協働プログラム」による支援の成果は着実に現れていることから，引き続き地域住民によるまちづくり活動の支援に取り組む。 ・地域おこし協力隊の受入れの推進や，任期を満了した協力隊員が引き続き任地で定住・定着できるよう支援を行い，まちづくり活動の担い手を増やす。 							

【重点戦略2】 地域づくり ～ 地域の魅力の更なる創出 ～

第1項 安全・安心な生活環境の確保

重点的に取り組む事業							
(1) 地域防災力・防犯力の強化・充実（消防団詰所の整備，自主防災組織の結成・育成の促進など） (2) 災害防止施設の整備，浸水対策の強化等（雨水対策，急傾斜地崩壊対策，避難路の確保，浸水対策，新たな森林経営管理制度など） (3) 市民が安心して利用できる安全な公共インフラの整備（道路・橋りょう等の維持管理の充実，道路整備など） (4) 市民の安全・安心を守るための危機管理機能の強化（防災・防犯情報メールの配信，中央公園の防災公園化など）							
目指すべき姿(目標)							
項目	目標(H27→R2)	単位	H28	H29	H30	累計	達成率
災害（山・がけ崩れ）に不安を感じる市民の割合	※H26 51.3 → 45	%	(R元調査予定)			—	—
自主防災組織の活動カバー率	81 → 91	%	82	84	84	—	—
評価	現状						
—	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年7月豪雨により発生した土石流により，市内各地で道路・橋りょうなどが被災し，家屋が倒壊，浸水をするなどの被害を受けたため，現在，被災した道路等の本復旧や土石流の発生箇所の応急対策を進めている。 狭あい区間の道路拡幅や両側歩道の整備など，安心して利用できる安全な公共インフラの整備を進めている。 急傾斜地崩壊危険箇所のうち，65.4%に対して崩落防止工事を実施するとともに，土砂災害ハザードマップを順次配布している。 自主防災組織は担い手不足等により，単独自治会での自主防災組織の結成は困難な状況である。 						
令和元年度以降の方向性							
<ul style="list-style-type: none"> 平成30年7月豪雨災害からの着実な復旧・復興を図るため，呉市復興計画に基づき，災害に強い道路等の整備や砂防・治山事業の推進を図るとともに，今後の災害に備えた気象や避難に関する情報伝達方法や避難行動の喚起など，防災力の向上に取り組む。 急傾斜地崩壊危険箇所の崩壊防止工事を継続して実施する。 避難の手引き（大雨編）を作成し，全戸配布するとともに，土砂災害ハザードマップを順次作成・配布する。 自主防災組織の未結成自治会が多い地区自治会連合会へ出向き，複数自治会での自主防災組織の結成を促進する。 							

第2項 産業競争力の更なる強化

重点的に取り組む事業								
(1) 特色ある資源を活かした農水産業の振興（有害鳥獣対策の充実，農地保全・遊休農地解消の推進，産地育成・地産地消の推進など） (2) ものづくり産業の振興（企業立地の推進，中小企業の新製品・新技術の開発支援，地域産業の活性化支援，中小企業人材育成事業など） (3) 観光・商業振興によるにぎわいの創出（商業施設等の活性化支援，大和ミュージアムの魅力向上事業，観光資源のブラッシュアップなど）								
目指すべき姿(目標)								
項目	目標(H27→R2)	単位	H28	H29	H30	累計	達成率	
新たな産業団地の従業員数（苗代・阿賀マリノ・天応2期）	1,142 → 1,700	人	1,181	1,164	1,325	183	32.8%	
新たな産業団地の立地企業数（累計）	7 → 18 (R元年度改定で18から25に変更)	社	14	19	21	14	140.0%	
新技術等の開発件数及び新サービス・システムの開発件数 （インキュベーション施設）（累計）	178 → 235	件	183	183	185	7	12.3%	
呉の特産として認知する市民が50%を超える農水産品数	※H26 3 → 8	品	(R元調査予定)			—	—	
年間入込観光客数	336 → 340	万人	336	332	R元.7 公表予定	—	—	
大和ミュージアム来館者の市内回遊率	15.1 → 18	%	16.5	16.3	13.6	—	—	
評価	現状							
○	<ul style="list-style-type: none"> ・販路拡大の推進やイベント出展等により，広カンラン等のブランド化を推進している。 ・苗代工業団地及び阿賀マリノポリス地区に立地した企業の新工場稼働に伴いこれらの団地における従業員数が増加した。 ・市内産業団地，呉市企業立地助成金の活用等について，市内外の企業に対し積極的なPRを展開している。 ・産業団地への立地企業数は順調に増加し，苗代工業団地は完売となり，既に目標値を達成している。 ・インキュベーション施設の入居要件を平成29年12月から緩和し，入居者の募集に努めている。また，くれ産業振興センター等が，新技術等開発件数及び新サービス・システムの開発件数増加に向けた入居者への支援等を行っている。 ・平成30年の年間入込観光客数は，平成30年7月豪雨災害の影響のため，減少すると考えられる。 							
令和元年度以降の方向性								
<ul style="list-style-type: none"> ・かきや広カンラン等について，生産者，関係団体（農協，漁協），市などで構成する各協議会が主体となり，ブランド化及び販路拡大を引き続き推進する。 ・阿賀マリノポリス地区については，今年度中の売却公募を予定するとともに，内陸部に新産業団地の造成を検討する。 ・引き続き，インキュベーション施設の入居者募集や，入居者支援を積極的に行い，新技術等の開発件数の増加を図る。 ・今年度は災害復興をテーマに観光キャンペーンを展開し，地域の特色を活かしたイベントをリレー形式で行うなど，観光客の呼び戻しを図る。 								

第3項 産業を支える人材の確保・育成

重点的に取り組む事業									
(1) 農業・漁業への就労支援（新規農業就業者への支援，新規漁業就業者への支援） (2) ものづくり人材の育成支援（実践型地域雇用創造事業の推進など） (3) サービス産業を担う人材の育成支援（福祉医療人材の確保・養成，リノベーションまちづくり事業） (4) 創業・起業へのチャレンジ支援（創業支援事業の推進，起業家支援事業） (5) 障害者等の就労支援（障害者就労支援体制の充実）									
目指すべき姿（目標）									
項目		目標(H27→R2)		単位	H28	H29	H30	累計	達成率
新規農業就業者数（累計）		13 → 28		人	15	16	17	4	26.7%
新規漁業就業者数（累計）		14 → 29		人	18	22	22	8	53.3%
実践型地域雇用創造事業による就職者数（累計）		364 → 689 (H30年度改定で568から689に変更) (R元年度改定で689から774に変更)		人	460	594	R元.7 公表予定	—	—
評価	現状								
△	<ul style="list-style-type: none"> 新規農業就業者は，農地の確保ができない，また，技術習得に一定期間を要するなど，短期間での安定した収入の確保が難しいため，希望者が少ない現状がある。 新規漁業就業者は，平成29年度に達成率が5割を超え順調に伸びていたが，漁獲量の減少により平成30年度は新規就業者がゼロだった。 実践型地域雇用創造事業において，平成27年度から平成29年度までの実績が，計画の約2倍の就職者数となっており，今後も増加が見込まれる。 								
令和元年度以降の方向性									
<ul style="list-style-type: none"> 新規農業就業者支援については，農業次世代人材投資資金及び新規就農者総合支援事業の周知徹底を図り，各関係機関との連携を強化することで，新規就業者の増加を図る。 個人・企業・大学等に対し，生産性向上による収入増が見込まれるスマート農業（AI，ドローン等）に関して，ひろしまサンドボックス※を活用した豊町大長での実証実験等の情報を提供し，農業への新規参入を促す。 新規漁業就業者支援については，現行の研修制度や奨励金の交付制度などを継続することで，新規就業者の増加を図る。 様々な業種で起業しようとする人に対して，呉市，くれ産業振興センター，商工会議所，金融機関等の相談窓口の開設，融資や，広島大学呉サテライトでの起業支援，さらには空き店舗等を活用した「リノベーションまちづくり事業」などを行うことで産業を支える人材の確保・育成に取り組む。 									

※ ひろしまサンドボックス：平成30年度から広島県が実施している事業で，AIやIoTなどの最新技術の活用による新たな付加価値の創出や生産性の効率化に取り組めるよう，県内の企業・大学・自治体等が様々な実証実験を行うことができる場所

【重点戦略3】 都市づくり ～ 都市機能の強化・充実 ～

第1項 高次都市機能の強化・充実

重点的に取り組む事業							
(1) 都市ブランド力の向上（呉市中心部回遊性向上機能の整備（青山クラブの活用等），呉駅周辺地域総合開発の推進など） (2) 高速交通体系を結ぶ幹線道路網の整備促進（呉平谷線の整備促進，広島呉道路の4車線化の整備促進など） (3) 拠点となる公共施設の整備（拠点スポーツ施設の整備，消防局・西消防署新庁舎の整備など） (4) 市民生活に欠かせない公共交通の維持・確保（基幹バス路線，生活バス路線，地域主導型交通サービスの運行支援など）							
目指すべき姿(目標)							
項目	目標(H27→R2)	単位	H28	H29	H30	累計	達成率
休山新道の所要時間（西口交差点～東口交差点）	約7分 → 約3分	%	7	7	3	—	100.0%
十分な都市機能が備わっていると思う市民の割合	※H26 13.6 → 20	%	(R元調査予定)			—	—
交通体系に対する市民の満足度	※H26 16.2 → 25	%	(R元調査予定)			—	—
評価	現状						
○	・休山新道については，4車線化工事が平成30年度に完了し，渋滞が緩和した。						
令和元年度以降の方向性							
・呉駅周辺地域の総合開発を推進し，高次都市機能の強化を図る。 ・公共交通の維持・確保に向けて，現状を広く市民へ周知し，運行形態の見直し等の取組を進める。 ・広島呉道路の4車線化や，休山新道と東広島・呉自動車道間のアクセス向上及び先小倉交差点の事故の減少を図るため，引き続き，阿賀インターチェンジ立体化の整備を促進するとともに，施設強靱化に向け早期の4車線化に取り組む。							

第2項 魅力ある住生活環境の確保

重点的に取り組む事業								
(1) 定住・移住の促進（子育て世代の定住支援，移住希望者の住宅取得支援，定住サポートセンターの充実など）								
(2) 空き家の有効活用（空き家家財道具等処分支援，学生シェアハウス支援，空き家バンクの充実など）								
(3) 環境に配慮した生活空間の整備（家庭用燃料電池（エネファーム等）の普及促進，廃棄物の適正処理）								
(4) 「呉らしさ」の情報発信（シティプロモーションの推進など）								
目指すべき姿(目標)								
項目	目標(H27→R2)	単位	H28	H29	H30	累計	達成率	
空き家バンク登録物件の成約件数（累計）	64→140 (R元年度改定で140から200に変更)	件	83	114	145	81	106.6%	
定住サポートセンターへの問合せ件数（累計）	467→1,500	件	821	1,089	1,260	793	76.8%	
家庭用燃料電池設置件数（累計）	124→524	件	148	172	191	67	16.8%	
一般廃棄物の排出量	H27年度(77,773)比5%削減	t	2%減 (76,042)	3%減 (75,828)	R元.7 公表予定	—	—	
評価	現状							
○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家バンク登録物件の成約件数は目標を達成した。また，定住サポートセンターへの問合せ件数は順調に伸びている。 ・ 家庭用燃料電池設置件数の実績の累計が67件と目標を下回っている。 ・ キャラクター「呉氏」によるシティプロモーションにより，関連動画再生回数は累計93万回，キャラクターグッズは25社から102種類（平成31年4月2日時点）が発売され，呉市の魅力発信につながっている。 							
令和元年度以降の方向性								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住・定住のPRを引き続き行い，定住サポートセンターへの問合せ件数の増加を図る。 ・ 島しょ部を中心に，空き家バンクの登録物件の掘り起こしを目的とした地元説明会を開催し，登録件数の増加を図る。 ・ 移住者同士のネットワークを構築するために，移住者交流連絡協議会を設置し移住希望者の受入と連携を強化する。 ・ 家庭用燃料電池設置の補助について，引き続き関係事業者等への広報・普及啓発に取り組み，制度の周知を図る。 ・ 継続的なシティプロモーションにより，呉市の知名度向上を図る。 								